

ブランド化・販路拡大の強化は

～農商工観連携による6次産業化と、
地産地消を推進～



く どう とも き
工藤友生

市民クラブ

質

今後は、どのような取り組みによって地産地消を推進するのか。

答
市長

市民の地産地消に対する認知度を上げる取り組みや、新鮮で安全・安心な旬の地場農産物を安定生産し、安定供給することができ、高齢者の生産活動に対する支援が必要と考えています。

質

市内のイベントの内容や補助金等について協議すべき必要性を感じているが、市の見解は。

答
商工観光課長

イベントの在り方をはじめ、内容や補助金について再度協議すべきであると認識しています。

それぞれに背景があり、多角的な視点から議論されることが必要だと感じています。

質

市花であるボタンザクラ等を植栽し、後の世代が観光資源として活用できるようにしてはどうか。

今後の観光振興は

「観光という概念を具体的に実現し、
経済に結び付ける」

答
商工観光課長

行政主導ではできないが、機運を高めることは必要で、拠点となる道の駅等に声を

する中で、市全体に広がるよう推進できればいいと思っています。



えほし公園（大野町）のボタンザクラ

質

どのような人材を育成するのか。

答
地域創生課長

2年間のカリキュラムが終了した後に、学んできたことを生かし、自発的なコミュニケーションの場をつくり、地域の困りごとの解決や自主性による地域づくり、地域振興により、地域あるいは町を超えて活躍できる地域リーダーを育成します。

地域リーダー育成事業とは

～「ひと」から「まち」づくりに
つなげる事業～



ひろ まさ とう え
正 藤 衛

三岳会

地域が主体の協議会とは

～持続可能な地域づくりを広げます～

質

地域振興協議会のこれまでの成果と今後の課題は。

答
市長

緒方町の上緒方振興協議会では、集落の人口が減少する中、国や県の事業を活用してコミュニティセンターの建設を行っています。大野町の土師振興協議会では日本文理大との連携、緒方町の長谷川地区振興協議会では

総合防災訓練の実施、三重町の松尾・鷺谷振興協議会では市内の幼稚園や保育園、小学校の体験学習の受け入れ、大飼町のながたに振興協議会と三重町の白山地域振興協議会では、地域づくり計画の策定に取り組んでいます。それぞれの協議会で活動内容は異なります

が、地域がみずからの課題を明確にし、地域が主体となり課題解決に取り組むコミュニティが形成されています。今後は地域リーダーを育成するとともに、モデル的に協議会の設立を呼び掛け、持続可能な地域づくりを市全体に広げていきます。



コミュニティセンター（上緒方振興協議会）

子育て環境整備を

～保育所機能充実が大切～

答
市長

過去5年ほどの出生数は毎年220人前後で推移していますが、保育所・認定こども園への入所希望数は、平成27年度は990人、平成28年度は1033人と年々増加しています。また、ゼロ歳児を保育所で預かる基準は、乳児3人に対し1人の保育士が必要となるため多くの保育士が必要となり、保育士不足に拍車をかけているのが現状です。平成28年度申し込みでは、受け入れ実人数を57人超過しています。市としては、幼稚園における預かり保育の拡充、保育所、認定こども園等における一時保育利用促進など環境整備を図り、児童の健全な育成を促進します。

質

全ての世帯が安心して、第2子、第3子を生育するため、子育て支援の現状と今後の施策は。